

平成29年度 第57回 米子市美術展覧会(市展) 部門別講評

洋画部門

昨年と比べて総点数は減ったものの質的な充実感を感じさせる展覧会になった。

特に市展賞の2点には目を見張るものがある。玉井詞・黒見由美子の「こだま」は色彩感覚に特筆すべきものがあり、橋本早公子「布上の静物」のダイナミックな構成力はブラックを思わせるものがある。

賞を逃した作品にも評価すべきものがあり、次回の市展に期待したい。

(評者:倉鋪 悠)

日本画部門

今年は、市展賞を選ぶことが出来ず、残念です。

全体的に良い作品が昨年より多数あった。もう少し加筆したり、描き方に工夫があれば市展賞など受賞すると思われる作品があった。個性ある作品が多く、良い展覧会になると思われる。

(評者:松岡 託司)

書道部門

無鑑査以上の作品が多いため、審査対象が減り、益々少数精鋭となった。

作品の種類は漢字、仮名、調和体、篆刻と中央書壇の作品展と変わりなくバラエティに富む作品展となっている。仮名の作品が少ないのは寂しい気もした。

作品レベルは向上し、又無鑑査の方もこれまでと少し異なる作風を手がけたりして見ごたえのある展示となった。

(評者:山田 龍香)

写真部門

うまさの目につく写真が多いと感じました。

組写真が多い中で、単写真に良いものがありましたが、もう少し力作が欲しいとも思います。

組写真は定番の見せ方のものも多く、マンネリを感じました。

(評者:岩下 直行)

工芸部門

昨年よりは出品作品数は増えたものの出品者が定着して来たように思える。

受賞には至らなかった作品の中にも、もう一步と思えるものが多く、いずれの作品も最後のひと手間をかければ、と感じられるものが多かった。

今回の出品作品以外にも工芸には多数の分野があるので、今後出品を促したい。

(評者:大谷 治)

彫刻部門

近年若い世代の人から意欲的な作品が出品されるようになり、心強く思っている。

技術的な上手下手ではなく、立体表現で何かを訴えようという姿勢が見え、今後が楽しみである。

また、毎年新しい出品者があり、まだまだ表現には工夫が必要な面が見られるが、挑戦しようという意欲に好感が持てる。無鑑査作家が増え、出品作品が増えていることはうれしいことであるが、作品の大きさがやや小さくなっていることが気になる。

(評者:湯原 剛文)